



## 農業委員・農地利用最適化推進委員

【三根地区】	【大賀郷地区】	【檜立地区】	【中之郷地区】	【末吉地区】
磯崎典雄(農)	加藤純生(農)	伊勢崎武二(農)	金田可奈利(農)	冲山慶孝(農)
奥山利平(農)	菊池勝男(農)	磯崎正(農)	菊池家司(農)	青木保憲(農)
浅沼博之(農)	菊池寛(農)	笹本守彦(推)	金田秀彦(推)	浅沼幸友(推)
浅沼實(農)	菊池みゆき(農)			
浅沼隆章(推)	菊池睦男(推)			
浅沼美和子(推)	奥山光洋(推)			

あけましておめでとうございます。  
農地の事で何かございましたら相談ください。  
(農) = 農業委員 (推) = 農地利用最適化推進委員

## 農業関連調査における八丈町からのお願い

八丈町産業観光課産業係では、毎年農地をお持ちの方を対象に、農作物の作付面積や生産量、栽培品目、今後の農業経営の意向等について調査を実施しています。調査対象とさせていただいた方には調査票を郵送し、回答がなかった場合には後日調査員が訪問しますので、ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。とりまとめた統計データは、八丈町の農業生産の実態把握や各種政策のための基礎資料とし、次のものなどに活用されています。(※個人の調査が目的ではなく、八丈町全体の統計数値を基礎データとして活用させていただきます。)

- 東京都農産物生産状況調査（東京都産業労働局農林水産部）
- 東京都の地域・区市町村別農業指標（東京都農業会議）
- 事業概要（東京都八丈支庁） ●農林水産省及び関東農政局の各種統計数値

趣旨をご理解いただき、調査へのご協力をお願いいたします。

○問合せ先：八丈町 産業観光課 産業係 電話04996(2)1125 担当者 小宮山

## 老後の安心「農業者年金」

農業者年金は、農業者がより安定した老後を過ごすことができるよう国民年金に上乗せする公的年金です。加入条件である3つの要件を満たす農業者なら、どなたでも加入できます。

【資料のお求め・お問い合わせ】 八丈町農業委員会事務局（八丈町産業観光課内）2-1125

## &lt;加入条件&gt;

- 20歳以上60歳未満の方
- 国民年金第1号被保険者（保険料免除者を除く）
- 年間60日以上農業に従事する方

## ◆農業者年金の特徴◆

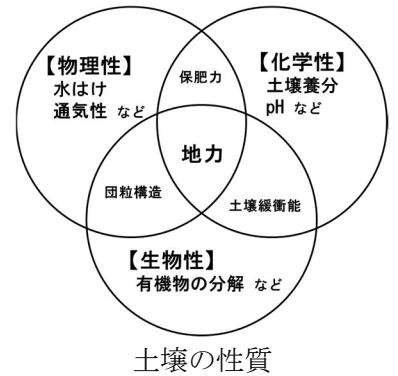
- ・終身年金80歳までの保証つき
- ・20歳から59歳までの間、加入・脱退が自由
- ・保険料額の自由設定・途中変更が可能  
(月々20,000円～67,000円の任意設定の金額)
- ・税制面での優遇措置(納付額=社会保険料控除)
- ・積立方式の確定拠出型年金のため、少子高齢時代にも安心

# 畑の「土づくり」について

東京都島しょ農林水産総合センター八丈事業所

## 1 土づくりとその重要性とは？

『土づくり』とは、畑（土壌）の環境を改善し、農作物が必要とする養分や水分をバランス良く供給できる能力（地力）を高め、畑が持つ農作物の生産性を維持・向上させることです。農作物に肥料を与えるだけでは、土壌は痩せ、その生産性が低下していきます。そのため、『土』を『つくる』、『土づくり』がとても重要になります。

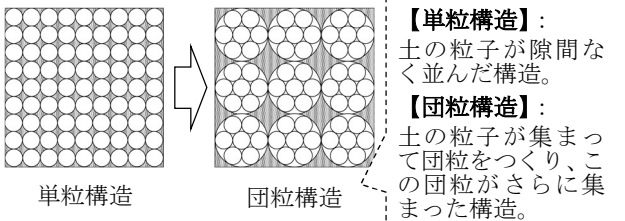


## 2 良い畑（土壌）の条件は？

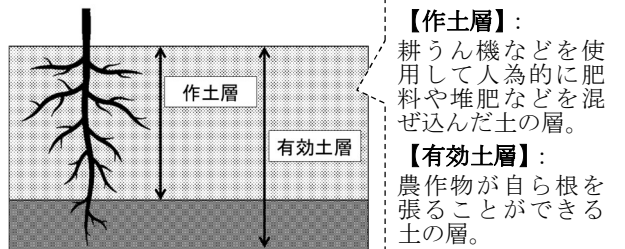
土壌とは物理性、化学性、生物性の3つの性質からみることができます。『土づくり』により、それぞれの性質を改善することで良い畑となります。

### (1) 物理性

○土壌が団粒構造を形成し、適当な孔隙（隙間）を持つことで、保水性、排水性が良くなる。

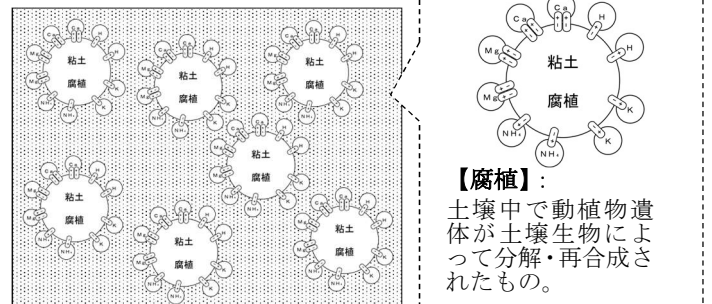


○作土層や有効土層が深く、農作物が根をしっかりと張ることで、水分や養分を十分に吸収できる。



### (2) 化学性

- 土壌のpHが各農作物の生育に適している。
- 養分の過不足や生育阻害物質がない。
- 土壌中に粘土や腐植が多く、保肥力やpHの緩衝能※が高い。



※pHの緩衝能：pHの急激な変化を緩和する力

### (3) 生物性

- 土壌有機物が豊富で微生物相が多様である。
- 病害虫が少なく、有用微生物が多い。

## 3 土づくりの方法は？

### ★有機質資材の利用

- ・家畜ふん堆肥（牛ふん堆肥、豚ふん堆肥、鶏ふん堆肥）  
腐植の基となる堆肥を畑にすき込むことで、団粒構造の形成を促し、物理性や保肥力が向上します。
- ・緑肥作物（ソルゴー、クローバーなど）  
栽培することで生物性が改善し、生育後、畑にすき込むことで土壌の物理性が向上します。また、生育した緑肥作物をすき込まず畑の外へ持ち出すことで、土壌中の過剰な肥料分を除去できます。

### ★石灰資材の利用

畑にまくことで、pHの調整を行います。栽培する農作物の適正pHを必ず確認してから使用します。

### ★農業機械の利用

耕うん機などを使用して、堆肥や石灰などを均一に畑にすき込むことができます。また、硬くしまった土壌を柔らかくすることができます。

これらの方法を参考に、しっかりと土づくりを行い、農作物の生産性向上を目指しましょう。

農業委員会だより編集委員

沖山 慶孝 伊勢崎 武二 磯崎 典雄 菊池 勝男 浅沼 博之